

# W OMEN'S



# NEWS

2005 DECEMBER

# S PORTS

VOL. 44

# F OUNDATION



プロゴルフ界の救世主は19歳の宮里藍 (フォート・キシモト)

# J APAN

Message	女子選手のユニフォーム	三ッ谷洋子	2
インタビュー	水泳の素晴らしさを伝えつづけたい	木原光知子さん	3
Opinion	「山ちゃん」に教えられたこと	関 美那子	6
	Time Travel	「スポーツ」「社会」	7
Women's Sports	草バレーボールのささやかな変化	吉沢直美	8
Column	大リーグ初の女性ゼネラルマネジャーの誕生は	山崎恵司	9
	会員の広場	光岡かおりさん 鶴見幸子さん 横地正恵さん	10
		事務局便り	11



## 女子選手のユニフォーム

「あんなユニフォームを着せるなんて、選手がかわいそう。何とかしてあげられないの」。たまたま女子サッカーを話題にした時、妹が強い口調でこういつてきました。

私がJリーグの理事をしていることもあり、「何とかしたら」といいたいようで、「選手たちの体型に全く合っていないし、色もひどすぎる」と、散々の評価です。

Jリーグの理事会で、女子サッカーのユニフォームについて意見を述べる機会はないのですが、そういわれて改めてユニフォームを眺めてみると、反論のしようがない状況です

上下ともダブダブのウェア。残念ながら、「格好いい」とはいえなく、流行のデザインとはいえず、「だらしない」という印象しか持てません。

長身の男子バスケットボール選手であれば、バランス的にも問題ないと思うのですが、大型でないスポーツ選手に、このようなデザインは似合いません。

### スポーツファッション後進国

ユニフォームといえば、オリンピックの度に、日本選手団の開会式のウェアが話題になります。ここ20～30年の大会で、諸外国と比較して素敵なデザインだと思えたことはほとんどありません。

日本オリンピック委員会(JOC)では、森英恵ら著名なファッションデザイナーに依頼したこともありますが、残念ながら「素敵」とはいえないデザインでした。

ある時、プロダクトデザイナーの平野拓夫さんと、スポーツウェアのデザインについて話をすることがあります。

「ミツ谷さんがいわれる通りです。海外の友人たちがいつもこういいます。『日本の工業製品は、世界トップの素晴らしいデザインなのに、スポーツウェアはどうしてあんなにひどいデザインなんだ』とね。常々、恥ずかしいことだと思っているんです」

### ファッションが普及を後押し

女性スポーツの発展には、ウェアの進化が大きな要素を占めています。

洋の東西を問わず、女性は近代まで腕や足を覆う服を着ていました。スポーツをする時も、長袖にロングスカートにというスタイルです。1世紀前の絵画は、女性たちがそんな服装でテニスやアイススケートをする様子を、描いています。

日本では、明治時代の女学生は、袴姿で体操をしていました。より動きやすくするため、袴の裾を縛ったりして工夫を凝らしたり、ブルマーが取り入れられたりと、時代とともに大きく変化してきました。

そして今や、「ヘソ出しウェア」で、マラソンやゴルフをしても、誰も驚かなくなりました。

### “ビートルズのセンス” に期待

そんな現代の女性スポーツウェアは、どうあるべきなのでしょう。昨年、国際サッカー連盟(FIFA)のブラッター会長が「女子選手のユニフォームは、体のラインがくっきり出るようにしたら」と発言したところ、「女性差別だ」と抗議されて撤回しました。

「体のラインがくっきり出る」というのが、どの程度「くっきり」なのかが不明ですが、前述のように、私も会長の指摘には同感です。要するにデザインの問題だと思います。

アディダスは昨春、ステラ・マッカートニーというデザイナーを起用して、新たなブランドの商品を発売しました。彼女はビートルズのポール・マッカートニーの次女で、世界のファッション界が注目する気鋭のデザイナーだそうです。

時代の空気を表現するセンスは、父親譲りなのでしょう。彼女がデザインする女性用サッカーウェアを是非、見てみたいものです。

## インタビュー

### 水泳の素晴らしさを伝えつづけたい

スイミングアドバイザー 木原光知子さん

東京オリンピックに最年少スイマーとして出場し4位入賞を果たした木原光知子さんが、4月に、財団法人日本水泳連盟の特命事項担当理事に就任されました。競泳選手としては初の女性理事の誕生です。水泳の世界で、現在は全国10カ所のスポーツ施設を運営するビジネスウーマンでもある木原さんに、これまでの水泳人生の歩みや、仕事を含めた活動についての思いについて、うかがってみました。

(10月19日=聞き手:吉沢直美)



木原さんは今でも必ずプールに入って子供たちの指導を続けている

### 小学校の先生が夢を後押し

— まず、水泳を始めたきっかけから。

木原 水泳は、小学生の頃、遊びの一つとして、学校や県営のプールで夏の間、泳いでいました。6年生の時、「僕の夢・私の夢」という作文で、「水泳でオリンピックに出て、いい成績を残したい」と書きました。多分、水泳が一番楽しい遊びだったのと、ローマオリンピック(1960年)で田中聡子さんが水泳で活躍され、そのことが頭にあったのかもしれないね。

— 特別な練習はしていなかったのですか。

木原 中学にはプールがなかったので、軟式テニス部に入りました。結構、強くて全国予選大会の新人戦で3位に入りました。

と言っても私は前衛でただ立って、後衛の島村さんに「島! 島!」って声を掛けるだけ。水泳で有名になって、テニスも強かったなんて書かれているのを見ると、パートナーの島村さんに「まったく」って言われますよ。

— 水泳の方はどうなりましたか。

小学校の担任の先生が中学に様子を見にきてくれて、「夢の実現に向けてどうしてる? 何もしなくては仕方ないぞ」と水泳のできる場所を紹介してくれました。

— 小学校の先生が、わざわざそこまで。

木原 かわいかったからね~と言うのは冗談で、私は団塊の世代で1クラス60人ほどだったんですが、安原先生は生徒それぞれに目を配り、個人・個性を尊重する教育をしてくれました。あの時、声を掛けてくれなかったら、今とは違う人生になっていたでしょうね。

— 素晴らしい先生との出会いですね。

木原 私が通った福浜小学校は、アムステルダムオリンピック銀メダリストの人見絹枝さんの出身校です。校長先生から人見絹枝さんの話を聞いて、「オリンピック」という響きが自分の中で近いものになりました。いま思えば、何か不思議なつながりがありましたね。



— その後、水泳で中学生として全国選抜大会に優勝、高校2年生で東京オリンピック出場と、華々しい活躍をされるわけですが、当時の心境や水泳に対する思いなどについてお聞かせ下さい。

木原 中2の時、地元(岡山)で国体が開かれることもあって、365日一生懸命やらなくちゃと思いました。とにかく泳ぐことが大好きで、気がついたら国体、東京オリンピックに出場していた感じです。



取材を受ける木原さん(東京オリンピック)

その後は注目度も上がって、調子が悪いと、「メキシコ(オリンピック)のホープは何をしているんだ」と罵倒されました。あの頃は選手時代が一番暗かったかな。

母に相談したら、「期待されているのだから、やるか、やめるかよ」とアドバイスされました。自分の中では「次の岐阜国体で日本記録を出してやめる」と決意して、全て新記録を出しました。

負けず嫌いですね。そうなるかとメキシコまでと請われ、アジア大会、メキシコのプレオリンピックに出場して優勝しましたが、国内では出場記録が出せず、福井国体に出場して静かに頭を下げました。

惨めでしたよ。19歳。この時、もう2度とこういう惨めさを味わうまいと思いましたね。

### ひとつひとつにピリオドをつける人生

— 周囲から見ると、あっさり引退した感がありましたが、色々いきさつがあったのですね。

木原 まあ、当時20歳はおばばですからね、引

退してもおかしくない年でしたよ。

— そうした中、大学に進学されてますが、何かきっかけはありましたか。

木原 水連の高石勝男さん(元日本水泳連盟会長)が、「これからは社会で女性が活躍する時代になるから、ぜひ4年大学に進みなさい」と進学を薦めてくれて。水泳を辞めた際も「大学中退ではなく卒業しろ」とアドバイスをいただき、物事はきちんとピリオドをつけ、次に進むことが大切だということを学びました。

— 大学卒業後はどうされたのですか。

木原 就職の時は、いろいろ声を掛けてもらって、銀行の秘書なんて話もありましたよ、真面目な仕事につくと(笑)。大学も、母校(日大)だけでなく、早稲田、立教、東海大などから誘われ、ありがたかったですね。

でも、すでに自分で仕事を始めていたので、それを続けていこうと。いま改めて、その選択でよかったなと思っています。

— 大学在学中からさまざまな仕事(水着モデルやインタビュアーなど)をされてましたが、周囲の受け取り方はどうでしたか?

木原 風当たりは強かったですよ。水連にインタビューに行って「お前は裸で何してんだ」「水着、着てます」って言い返したこともあったしね。でも、温かく迎えてくれるところもたくさんあり、自分のやりたいことを「やり通す」と言う気持ちでいっぱいでしたね。

### うれし涙を流したい

— 就職ではなく、水泳の指導・普及に関わる仕事を選び、その後、ミスイミングクラブの運営に着手されますが、どんな経緯だったのですか。

木原 最初はホテルオークラのプールでスイミングスクールを始めました。レッスンだけでなく顧問としても扱ってもらい、本当に感謝しています。今もずっと続けていますよ。

— そういう恩義は忘れちゃいけない。お世話になった企業には、それこそ「ビールはキリン、オ

イルは日清、ハンバーガーはモス」って感じで通ってますよ。

そして、19歳の時に「惨めになりたくない」「流すならうれし涙を」と言う思いが原点で、30代を前にしっかり稼げる人間になろうと思った時、自分の目指す水泳をどういう形で実践していくかと考え、スイミングクラブ設立に至りました。

資金・人材など困難な問題はありましたが、キリンビールのスポーツ施設が荏原にあり、ミスイミングクラブを始めることができました。多くの方の力添えのおかげです。

### 男女は相対関係

— ところで1997年からウーマンズ・スイム・フェスティバルの大会委員長となられましたね。始められた意図をお聞かせ下さい。

木原 自分だけのことを考える年代じゃなくなり、何か社会に役立つことをという思いが強くなりました。そんな時、19年ぶりにマスターズ水泳に参加して泳いだら、結構真剣になっちゃってね。会社の若い社員たちは私の現役時代を知らないから「社長、すごいですね」なんてね。

「真剣にやると人は感動するんだ」と感じました。そこで「水に感謝」という気持ちと「華やかで明るい女性のフェスティバルをやろう」という思いで、女性だけの水泳大会を始めました。

— 今年で第9回を迎え、ますます盛んな大会となりました。成功の理由はなんでしょう。

木原 今年4千人近い方が参加してくれました。役員から全て女性でやっています。でもその後ろには、応援してくれる男性の力も大いにあるんです。そういう支えのもとで、少しずつ「こんなことができるんだ」と女性たちが思えるようになってきたことかな。

性別ではなく、淡々と努力すること、そうすると結果は後からついてくることを実感、また頑張る、そういう積み重ねですかね。女性だからという逃げ道ではなく、厳しい気持ちを持つ、いい加減さを取り払う、そんな気持ちを今後も強く持つ

ていかなければいけないと思っています。

— そうした仕事を通して、女性男性の違いを感じたことはありますか?

木原 男性は体力、持久力、集中力がありますね。最近、改めてすごいなと。男性に尊敬の念を持ちつつ、柔軟に謙虚に女性もしっかり仕事をしていくことが大切。相対関係ですからね。

— 木原さんは今年6月、トータル・オリンピック・レディーズ会(オリンピックに出場した女子選手の会)の新会長にられました。どんな会にしたいと考えていらっしゃいますか。

木原 広い出会いの場にしたいですね。知られていない競技を紹介する、知らない人を知らせる、世に出す、そうした機会になればと思います。

オリンピックやスポーツは素晴らしいんだということを幅広く知ってもらいたいですね。そして、オリンピック選手は勝つために超一流になること、運動でお金を稼げることが大切です。

人見絹枝さんは自分や後輩のために新聞記者をしながら自費で大会に出場し、過労で若くして亡くなりました。そのように頑張ってきた様々な年代、様々な競技種目の人と会って話をすることは、貴重なことだと思います。

— こうした仕事に精力的に取り組まれている原動力は何ですか。

木原 水泳が大好き、水泳のおかげという気持ち、これにつきます。3日、泳がないと機嫌が悪くなりますからね、いつも水着携帯です。

—最後にWSFジャパンへの注文・要望などがありましたら、お願いします。

木原 やめないで、続けていってください。

### <木原光知子さん略歴> 岡山県山陽女子高校

1年生で東京五輪に出場し「天才美少女スイマー」と呼ばれた。引退後はマスコミ等で活躍。現在、ケイ・アンド・エム・インターナショナル社長。50m自由形日本記録保持者(55歳区分)。48年、兵庫県生まれ。WSFジャパン会員。





# 「山ちゃん」に教えられたこと

名古屋市守山区体育協会監事 関 美那子

## スポーツは懸命に、そして楽しく

「山ちゃん」は楽しい、素晴らしい。山ちゃんは全身全霊でソフトボールに打ち込んでいる男の子である。私が地域のソフトボール指導を引き受けるようになってから30年になんなんとしている。男の子ばかりの子ども会チーム、婦人ばかりのソフトボールクラブ、男の子と女の子の混成子ども会チーム、小学校部活動の女子児童のみのチーム等々、多種多様である。

話を山ちゃんに戻す。今年4月、小学3年生の多くの仲間と一緒に、子ども会のソフトボールチームに入って来た。普通より少し細身の、神経質そうな男の子である。と、それが私の第一印象である。練習はソフトボールと野球の違いを少し説明する。準備体操のあとにダイヤモンドを使ってベースランニングをする。

それがソフトボールの練習の始まりである。子ども達は16.76メートルの本塁、一塁間をバットを素振りしてひた走る。

山ちゃんは重いバットをふって全速力で、全身全霊を投げ打つかのようにベースを走り抜ける。そして、細い黒ぶちの子ども用メガネの中から、私の方を見る。「ナイスランニング!!」と言って、私は山ちゃんの目に合図する。山ちゃんはひときわ一生懸命に、そして楽しそうに走る。

## 成長期の指導の大切さ

私は指導当初、バットの持ち方、ボールの握り方等を細部にわたり指導していた。しかし、その後の経験から、子どもの成長は自然にまかせ、眺めていることにした。もっとも、動作に危険をはらんでいるときは別である。

背丈だけでなく、歩幅・手の大きさ等々、子ども一人ひとりに差異があるように、その時、一生懸命に、そして天真爛漫に打ち込めるときが、子どもの成長期であり、それがちょうど小学校3年生ころではないかと思われる。

そういう時こそ、特に気をつけなければならないのは、正確で適切に、しかも簡潔にその年齢・体力にあった指導を行うことであろう。3年生でも

センス抜群の子どもは、プロ選手顔負けの捕球スタイルである。一度覚えた習慣は直すことは困難である。

そこで山ちゃんの登場が大切となる。ちょっと長めのジャージのせい、ダッシュが少し緩慢に見えるが、瞬時にボールのところまで走り、体の真正面の位置にグラブを立てて正確に捕球する。

時々“模範演技”を披露するよう頼むことがある。ちょっと照れくさそうに、私の依頼を聞いてくれる。山ちゃんは明るく、楽しく、何でも質問する研究家だと気づかされた。先の第一印象は山ちゃんの名誉のために取り消すことにする。

## 地域指導者が危惧すること

最近、私が気掛かりなことが2つある。一つ目は大人も子どもも挨拶が嫌いである。元来、挨拶は家庭教育の源であるにもかかわらず、教えるべき親が出来ないのである。毎年4月に新入部員が来る初日に、私の第一声はソフトボールが上手にならなくても良いから“あいさつ”の出来る子どもになってほしいと挨拶する。初日は大方、父兄



名古屋市守山区子ども会ソフトボール大会

同伴だからである。

二つ目は若者、子どもの体力の低下である。

学力中心になりがちな学校教育から健全な精神と身体は育つであろうか。高齢社会の将来を危惧するのは私達、地域のスポーツ指導者のみではなかろうか。ひたすら走ることを厭わない小学生時代の最も大切な時に、ゆとりある学校体育に時間をさいてほしいと願うのみである。山ちゃんに教えられた今年、ひとしお感ずるのである。

<せき・みなこ> 1984年～2001年、名古屋市体育指導委員。2003年～、日本体育協会公認スポーツ指導者。愛知学院大学同大学院文学研究科在学中。WSFジャパン会員。

# TIME TRAVEL

WSFジャパンがスタートしたのは1981年。今から4半世紀前です。その当時は一体どんな社会だったのでしょうか。この欄では、女性スポーツと女性を取り巻く社会の話題を、当時の新聞記事から取り上げ、時代の流れに目を向けてみることにしました。

## スポーツ

### 新体操 しなやかに、人気上昇中 3年後のロス五輪正式種目に採用された新体操

<1981年4月16日：読売新聞夕刊>

音楽にあわせ、手具を使って床の上で舞う。ダンスと見まがう華麗さだが、これが立派なスポーツ。名付けて「新体操」。まだ耳慣れない種目ではあるが、1984年のロサンゼルス五輪の正式種目に採用され、一躍脚光を浴びている。

<その後> 新体操はロサンゼルス五輪の個人総合で山崎浩子さんが8位に入賞、2000年シドニー五輪では団体が5位となった。山崎さんは現在、新体操のインストラクターとして、またスポーツライターとしてスポーツを広くカバーし、幅広く活動している。



## ジャズに合わせて踊る



体を動かすストレス解消に  
好きな時一人で  
楽しむ

## ジャズに合わせて踊る「ジャギー」が人気 美容と健康“新しい汗”

<1981年8月22日：読売新聞>

美容と健康ばかりか頭の回転まで良くすると、いま女性たちに大人気の「ジャギー教室」。ジャズに合わせて体を動かす点がたちまちブームとなった。「好きな時一人できて、すぐ楽しめる点が現代人向きのようだ。」

<今は> 「ジャギー」という言葉は死語になっている。当時、同様に人気を得ていた「ジャズダンス」も影が薄く、ダンス系は「エアロビクス」が主流となっている。

## 社会

### 離婚前線は“妻高夫低” 妻から「別れてヨ」 件数最高 3分43秒に1組

<1981年6月27日：サンケイ新聞>

離婚の実数は14万1600余組で史上最高。そして、最近の傾向からみた離婚の形態は大きく様変わりし、“離婚先進国”のアメリカやソ連に似てきたことが特徴。とりわけ目立つのは女性の積極性が一段と強くなったこと。高齢者の離婚も妻が主導権を持ち、“妻としての責任をはたしたから”という言い分で何十年も連れ添った二人が簡単に別れている。

<近年は> 2001年の離婚件数を見ると、28万9836組となっており、20年で2倍に増えた。





草バレーボールチームのささやかな変化

吉沢直美

私は中学・高校とバレーボール部に所属し、その後も高校のOB・OGを中心に作ったクラブチームで25年以上、地域でバレーボールを続けています。そこで見聞して感じたことを書いてみたいと思います。

★スポーツを続ける妻の工夫

私が長きにわたってバレーボールを続けてこられたのは、独身で自分の時間を作りやすかったことが理由の一つとしてあげられます。

チームメイトも同様で、20～30代前半の頃は独身者が多く、仕事の合間を縫って週2回の練習に、週末の試合にと、思う存分楽しんでいました。

それが、結婚や出産を機に状況が変わってきました。理解のある夫であれば、少しの時間だけでもコートに来たり、夫に子守りを頼んで練習に参加できるのですが、理解のない夫の場合は、チームを離れなければなりません。

最近、ママさんバレーを長く続けている50代の女性から、次のような体験談を聞きました。彼女は専業主婦で、夫の両親と同居。夫は猛烈サラリーマンでいつも帰宅が遅く、家事と育児に追われる毎日だったそうです。

彼女の唯一の楽しみはバレーボール。夜の練習がある日は朝から大忙しです。夕方までに家の用事は全てやり終え、舅、姑はもちろん、子供たちも夕食とお風呂を済ませ、後は寝るだけという状況にして、7時過ぎになると子供たちに言い聞かせます。

「ママはこれから、ちょっとバレーボールの練習に行ってきますからね。お兄ちゃんは妹の面倒を見て、仲良く寝るのよ」。長男は「うん、わかった。大丈夫だよ、任せて」と言い、下の娘さんも「うん、お兄ちゃんと寝ている」と言って送り出してくれたそうです。

彼女は母親の思いを感じ取ってくれる子供たちに感謝しつつ、9時頃まで練習。急いで帰宅し、お風呂に入りユニフォームの洗濯を済ませ、何事もなかったかのように、子供たちの隣に添い寝を

して、夫の帰りを待ったそうです。

「子供が小さい頃は、そこまでしてやりたかったのね」と、感慨深そうに振り返っていました。

そんな時代から10数年が経ち、最近では結婚後や出産後もバレーボールを続けることが当たり前のように、コートに復帰する女性の姿が増えてきました。夫婦のあり方や夫の意識が変化してきたのかもしれませんが。

★ママさんバレーから地域スポーツに

最近では妻と一緒に家族で体育館に来たお父さんたちが、「パパさんバレー」をするようになったりしています。ちなみに私のクラブが加盟している板橋バレーボール連盟の大会では、「親父の会」というカテゴリーができました。



母親が家族や地域のスポーツをリードする時代

私たちは地域の小学校体育館を借りて練習をしています。バレーの練習に来る母親について大勢の子供が来てとても賑やかです。

年配になり通常の練習がきつくなったチームメイトが、仲間の子供たちの面倒をみることも少なくありません。そんな大人たちに、時に可愛がられ、時に叱られながら、子供たちは体育館でのびのび遊んでいます。地域でスポーツを続けていく良さがこんなところにもある気がします。

我がチームも最近高齢化が進み、そろそろジュニア登場となりそうです。親子二代のチーム。この楽しそうな響き。まだまだやめられそうにありません。

【よしざわ・なおみ】 スポーツ21エンタープライズ、WSFジャパン事務局

大リーグ初の女性ゼネラルマネジャーの誕生は

山崎 恵司

読者の中で、野球の大リーグに関心がある方はどれくらいいるだろうか。今回はグラウンド上でプレーを繰り広げるイチローや松井秀喜ら男性選手ではなく、大リーグ野球の運営にかかわる女性にスポットライトを当てたい。

最終候補に残った女性

ドジャースという球団がある。大リーグに飛び込んだ野茂英雄投手が最初に契約したチームで、ことしも中村紀洋選手と契約した。ロサンゼルスに本拠地を置き、日本には何かと縁があるチームだ。オフに入って、ドジャースはゼネラルマネジャー(GM)を解任した。その後候補の中に、1人の女性がいた。キム・アングさん、36歳。中国系米国人である。

大リーグ野球も含め、米国のプロスポーツチームは大雑把にいうと、営業・販売部門と、チームを編成・運営する部門の2つから成り立っている。GMというのは、チームを編成・運営する部門の責任者。選手をドラフト会議で指名したり、他球団からトレードで選手を獲得したりして、チームをつくる。監督やコーチ陣の人事権も持っている。

GMが選手を集めてチームを編成。自ら選任した監督にチームの指揮を執らせる。成績が振るわないと、監督を解任することもできるが、時には自らも責任を問われてクビになることも珍しくない。ドジャースの場合は、GMが監督を解任し、その後、自らも解任されてしまったというケースだ。

アングさんは11月上旬、ドジャースの球団首脳の面接を受けた。大リーグでは、各球団がGMや監督を選ぶときに候補者を数人に絞り込み、面接するのが一般的。GMの最終候補に女性が残ったということで、米マスコミの注目を集めた。

大リーグで副GM

アングさんはインディアナ州で生まれ、ニューヨークで育った。子どものころからスポーツが好き。テニスとソフトボールが得意だった。シカゴ大学に進み、ソフトボール部で主将を務めるなど

活躍する一方、公共政策と経済学を専攻した。

在学中にインターンとして実習先に選んだのは大リーグ野球のシカゴ・ホワイトソックス。1990年にシカゴ大学を卒業すると、ホワイトソックスで働き始めた。その後、大リーグのアメリカン・リーグ事務局で1年間勤務し、1998年、副GMとしてあこがれのヤンキースと契約した。

2001年、契約が満了。「9・11」のテロ事件が起きたことも影響したのか、一度は野球界を離れることも考えたという。そんな時に、ドジャースのダン・エバンスGM(当時)が自分をサポートする副GMのポストにアングさんを誘った。ホワイトソックス時代の上司である。

誕生は時間の問題

アングさんは、2002年からドジャースの副GMとして、選手の契約を担当してきた。石井一久投手がドジャースに入団したとき、代理人と交渉して、総額1220万ドル(約14億6400万円)の契約をまとめたのもアングさんだった。

実務面での経験と知識は副GMとして十分に積み、周囲の評価、信頼も得てきた。だから今回、ドジャースのGMに選ばれたとしてもおかしくはなかったのだが、結果はそうならなかった。

ドジャースはサンフランシスコ・ジャイアンツの副GMだった50歳のネッド・コレッティ氏を選んだ。アングさんよりも年齢で一回り以上、上である。

チーム作りに失敗して解任された前GMが30歳前半の若さだったことから、その反動で経験を重視した人選になったようだ。

GM昇格がならなかったアングさんだが、ドジャースにとどまり、コレッティGMを支えていくつもりようだ。今回は実現しなかったが、遅かれ早かれアングさんがGMの座に上り詰めるのは間違いない、と見る米球界関係者は多い。「女性」と「アジア系」という2つの意味で史上初のGMが誕生するのは時間の問題だろう。

【やまざき・えいじ】 W S F ジャパン会員



## ■ 会員の広場 ■

### 光岡かおりさん



専門学校講師  
(神奈川県川崎市)

医療系専門学校でアスレティックトレーナー論を教える傍ら、医学部大学院で筋力・筋持久力に関する研究にも取り組んでいます。今年のウィンブルドンテニス・女子シングルス決勝を夜中のライブ放送で見ました。テニスでは、治療とは別に治療が必要かどうか診察するための時間を取ることができるようになったとのことで、第3セット途中でダベンポートが腰の診療を要求しました。彼女のトレーナーがコートサイドで動作チェックを行う様子そのまま数分間放送され、思いがけず多くの方にトレーナーの存在を印象付けることになりました。

その後、メディカルタイムアウトを経て再開したゲームは、女子決勝史上最長の2時間45分に及び、大接戦の末ヴィーナスが逆転優勝しました。彼女たちの高い技術を支えているすばらしいスピード、パワー、スタミナ、そして腰の不調にもかかわらず最後まであきらめことなく全力で戦ったダベンポートの気迫、まさに世界最高峰にふさわしい好ゲームでした。

### 鶴見幸子さん



(社)日本エアロビック  
フィットネス協会理事長  
(東京都文京区)

当協会は、エアロビクス指導者の教育・資格認定団体として活動をスタートし、任意団体時代も入れるともうすぐ25歳になります。若い女性が元気に弾む当初のエアロビクスから、今ではどちらかと言うと中高年が元気に汗を流す運動となり、その中身も実に多種多様。会員の九割が女性であり、25年という時を経て「子供が生まれた」「子供が結婚した」「孫が生まれた」「親を看取った」…と、様々なライフステージを歩みつつ、指導を続けています。

年齢を重ねるとともに、これまでのグループ指導中心から、最近はパーソナル指導やヨガ、ピラティス等の、マインドエクササイズ系プログラムも取り入れられ、キャリアの厚みが増しています。世の中の変化や、自分の変化に合わせて柔軟に指導内容や姿勢を変えていくことができるだけに、何をもちってプロと呼ばれるのかが見えにくいのも事実です。しかしながら、そのしなやかさがたくましさであり、強さだ…と思う私です。

### 横地正恵さん



グラウンド・ゴルフ指導員-写真左  
(愛知県名古屋市)

私は、子供の頃より体が大きく運動好きで、小学校時代は戦時中のため道具が何もなく、棒高跳びや幅跳びなどをしていました。中学から大学まではバレーボール、ソフトボールやアイススケートなどもしました。

私の家族はスポーツ一家で、主人は学生時代に野球を、息子は小・中学校でバスケットボール、高校・大学とアーチェリーを、娘は体操とクラシックバレエをし、母親になった現在もクラシックバレエを続けています。

私は名古屋市体育指導員を12年間務めさせていただき、その後、名古屋市守山区グラウンド・ゴルフ協会の関美那子会長にお世話になり、グラウンドゴルフ歴15年になります。グラウンド・ゴルフは年齢を問わず楽しむことができ、ゲートボールのように争わない点が面白く、魅力を感じます。夫婦でグラウンドゴルフの指導者資格を取りましたが、最近はそのようご夫婦が多くなりました。これからも元気の限り、主人と共にグラウンドゴルフを続けていきたいと思っています。

## ◆◆◆ 事務局便り ◆◆◆

### ◆WSF ジャパンのアドレスが持てます

WSF ジャパンでは、現在、事務局連絡用にメールアドレスを使用していますが、使用アドレスにまだ余裕があります。

そこで希望される会員には、無料でWSF ジャパンのメールアドレス（あなたのお名前@wsfjapan.org）をご利用いただけるサービスを開始しました。ます。ご希望の方は事務局にご連絡ください。

### ◆掲示板への書き込み募集中

WSF ジャパンがグループとして登録されている、女性と仕事の未来館（財団法人女性労働協会が運営する女性の社会参画支援組織）では、ホームページに開設している掲示板への書き込みを募集しています。

イベント開催情報や団体・グループの活動紹介のPRができます。（<http://www.miraikan.go.jp/koryu/index03.html>）書き込みをされる方は、IDとパスワードをお知らせしますので、当事務局までお問い合わせください。

### ◆「世界女性スポーツ会議」受付開始

「2006 世界女性スポーツ会議くまもと」が来年5月11～14日、熊本市で開催されます。WSF ジャパン会員の小笠原悦子さんが理事長を務めるJWS（スポーツに関わる女性を支援する会）ほか、日本オリンピック委員会、熊本県、熊本市が共催しています。

第1回は1994年にイギリスのブライトンで開催、今回が第4回です。各国オリンピック委員会や国際・国内競技連盟関係者、一般のスポーツ愛好者などが参加します。

この会議の参加受付が11月1日から始まりま

した。詳細は<http://www.iwg-gti.org/kumamoto2006/j/index.htm>をご覧ください。

### ◆寄付のお礼（11月末日現在=敬称略）

以下の方々から、ご寄付をいただきました。こころよりお礼を申し上げます。（順不同）  
・竹内里摩子・清和洋子・武江久美・榊井映里  
・関美那子・井上喜久子・松本迪子・福田富昭  
・全日本ボウリング協会・荒川御幸・島谷順子  
・千葉吟子・野々宮徹・倉地博美・川淵三郎・島健・後藤忠弘・鈴木律子・原悦子・日本エアロビックフィットネス協会・光岡かおり  
（計22人・団体、31件101,300円）

### ◆新入会員（11月末日現在=敬称略）

【個人会員】横地正恵（愛知県・名古屋市）、朝倉文子（愛知県・愛知郡）、猪浦玲子（静岡県・沼津市）

### ◆新スタッフです ヨロシク

はじめまして。この度、WSF ジャパン事務局を担当することになりました吉沢直美です。“デビュー戦”は木原光知子さんのインタビューと、30年来つづけているバレーボールについて書かせていただきました。

事務局にある4半世紀前からのスクラップを読みながら、今まで知らなかったスポーツを知ったり、選手やスポーツにかかわる人々の様々な努力に驚かされたりしています。また、名簿や帳簿のチェックをして、運営の大変さや事務局の役割の大切さなど実感しました。

これからも、私の取り柄である体力と好奇心で、女性スポーツのあれこれを取り上げていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

WSF Japan News 第44号（2005年12月）

発行：WSF ジャパン 発行人：三ッ谷洋子 編集・製作：スポーツ21

〒157-0071 東京都世田谷区千歳台1-41-19-310 スポーツ21内

TEL 03-5490-1877 FAX 03-5490-5922

E-mail [info@wsfjapan.org](mailto:info@wsfjapan.org)

URL <http://www.wsfjapan.org>

## WSFジャパンとは

1981年12月、米国WSF (Women's Sports Foundation=女性スポーツ財団)をお手本として設立されたボランティア団体です。プロ・アマや年齢を問わずスポーツに様々な形で携わる女性が抱える問題を解決し、女性の視点からのスポーツの研究を通じ、女性スポーツの振興を図ることを目的としています。

主な活動は「WSF Japan News」の発行、「女性スポーツフォーラム」の開催、「女性スポーツの現状についての調査・研究」、「女性スポーツに関する情報提供」などです。会員は、元選手・指導者・研究者

などのほか、マスコミ・一般企業の関係者など男女を問わず、様々な分野に渡っています。

### <入会金と会費>

	入会金	年会費
・学生会員	3,000円	5,000円
・個人会員	3,000円	8,000円
・団体会員	5,000円	15,000円
・賛助会員	50,000円	100,000円
・会報会員	なし	3,000円

### ~~~~米国WSFについて~~~~

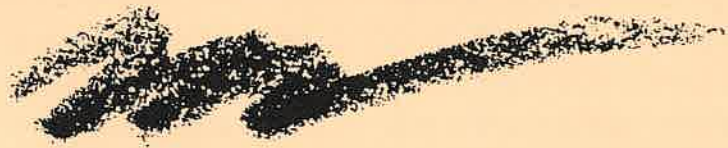
1974年、米国のトップテニス選手だったビリー・ジーン・キングが提唱して設立されたのが、非営利の女性スポーツ振興団体WSFです。発起人は、東京オリンピック陸上競技100m優勝のワイオミア・タイアスを初めとする米国のプロ・アマ一流選手や指導者、研究者など。

毎年、秋の「表彰ディナー」は、一般の人も有名選手と同席できる形式としてチケットを高額で販売するなど、様々な活動で資金を捻出し、女性スポーツの振興に取り組んでいます。

主な活動は次のようなものです。①情報サービス ②優秀選手・指導者等の表彰 ③ニュースレターの発行 ④会議、セミナーの開催、講師の紹介や派遣 などです。

(事務局: Women's Sports Foundation / Eisenhower Park, East Meadow, New York 11554  
<http://www.womenssportsfoundation.org>)

# 女性スポーツを応援しています。



スポーツビジネス総合シンクタンク

# SPORTS 21®